

### ③ ロッカーができたよ

昭和30年代に私が勤務した学校は木造校舎でした。神末小学校は3教室並んだ平屋2棟と6教室の2階建て校舎、桜井小学校は本館が2階建て、南館が平屋、この2棟は100mを超す長い長い校舎でした。木造校舎には暖かみがあり、ぬか袋で磨きあげた廊下はピカピカに光り、教室は各担任の工夫がいっぱいでした。

神末小学校で驚いたのはT先生の教室の水槽でした。畳1枚くらいの木箱に池が作られていたのです。水草が植えられ小魚が泳いでいました。発想のすごさに驚き「すごいな」と思いました。もっとも、「魚は外に見に行ったらいいよ」とも思いましたが。ランドセルの整理のために金具を取り付け、棚を作って学級文庫にする、そんなアイデアがそれぞれの教室に満ちていました。

宿直の夜の巡回は研修の場でした。4年生の教室には村の歴史年表、6年生の教室には日本の歴史年表がありました。作る先生によって2つの形式がありました。1つは大昔の各世紀の間隔を短く、記載する内容の多い近代は長くしてあるもの、もう1つはすべてを同じ長さにして時間の長さが感じ取れるようにしてあるものでした。手作りの花瓶が置かれ、誕生会の計画が掲示されていました。かべ新聞の工夫を見つけました。桜井小学校は、近畿や県などを単位として開かれる研究大会の会場になったり、国・県・市の指定研究学校を引き受けたりすることの多い学校でした。それだけ、参観者も多く、学校の環境構成、学級教室づくりには一層力が注がれていました。最近のように、学年で討議して「こんな教室にしようか」「こんな教具を作ろうか」などと話し合っただけで同じものを作るのではなく、アイデアの競争でした。隣の教室に負けないという気持ちが強かったようでした。

そんなとき、廃棄するという大きな箱型の棚を見つけました。縦横それぞれが 1.8メートルほどで、下駄箱のように25の区画に仕切られていました。これをきれいに洗って教室に持ち込みました。1つの区画を2人で共用させ、持ち物を整理させました。あまりきれいでない背面には端切れの布を貼り付け掲示板にしました。側面には緑色のペンキを塗りました。この学校でできた最初の児童用ロッカーでした。後ろの戸から入ってもすぐには教室の全景が見渡せないことで落ち着きが生まれました。写真が残っていないのですが6年3組は特別な教室になりました。他のクラスの子に自慢する子もいて、見にくる児童が増えました。



生駒南中学校も3棟の校舎のうち、校長室と職員室、4つの教室のある本館だけが鉄筋コンクリートで、他の2棟は木造校舎でした。しかし、この木造校舎は戦後の63制の実施に伴い苦しい財政事情の中で大急ぎで建てたものですから、隙間やゆがみがありました。それは、

県内の多くの中学校に共通することでした。昭和 42 年から 3 年間勤めた生駒北中学校は 3 棟すべてが 1 階建ての木造校舎でした。壊れたところに手を加え、古びて汚れている壁面に模造紙を貼ってきれいにするのが 4 月初めの仕事でした。

今、どこの学校もきれいな鉄筋コンクリートの校舎になっています。コンクリートの壁はきれいに塗装され、木製あるいはスチール製のロッカーが並んでいます。厚いガラスはめったに割れることなく、新入りの教員がガラス係としてガラス切りの練習をするといったことは昔物語になりました。釘を受け付ける柱はなくなり、棚を取り付けるなんて思いも寄らないことになりました。作品は掲示板の枠の中にだけ貼ることになり、天井から何かをつり下げるといったこともできにくくなりました。与えられたものを汚れないように使い、4 月が来れば次の先生に引き継いでいくというのは大切です。しかし、工夫の余地がないことに何か物足りない気がするのは私だけでしょうか。それでも白い壁は汚くなっていきます。昔の教室の柱や板がしだいに茶色に染まっていき風格が出てくると違って、今の白く塗られた壁は作られた日が最高の美しさで日を追って汚くなっていくのです。

校長として勤務することになった学校で、教室に畳を持ち込み、休息の場を作った先生がいました。絨毯を敷き、輪になって語り合うことができるようにした先生がいました。「あんなことを許しておくのですか」という意見の先生がありました。保護者から、「神聖な教室が遊びの場になっているのではありませんか」と尋ねられたらどう答えたらいいんだろうと思ったことがありました。「個性を生かすんだ」とはいうものの、みんなが競争で風変わりなことを追い求めたら、という気がします。でも、そんな若い先生たちを見ながら、自分も結構そんなことをしていたんだなあ、という気がしたことを思い出します。